

事業名	家畜衛生技術指導事業費			調査番号	82
細事業名	慢性疾病等低減対策費	財務コード	056602		
担当部課室	農政 部 畜産 課 安全衛生 担当 (内線)	5265			

## 事業の概要

実施期間	始期 H12 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	畜産農家	家畜の慢性疾病による被害を低減している	安全・安心な畜産物の生産及び生産性向上
内容	畜産農家に対して、生産性を阻害する慢性疾病等の調査・検査・分析を行ない、衛生指導を実施することにより、安全・安心な畜産物の生産及び生産性の向上を図る。 細菌・ウイルス学的検査(500検体)、血清学的検査(440検体)、寄生虫検査(200検体)		

## 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
活動指標	検査数	目標	1,640	1,640	1,640	1,640	1,640	1,640
		実績(見込)	1,716	1,584	1,724	1,637	1,496	1,640
		達成率	104.6	96.6	105.1	99.8	91.2	
		達成区分	b	b	b	b	b	
成果指標	県内家畜共済死廃事故割合(死廃数/加入頭数)	目標	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7
		実績(見込)	2.7	2.8	3.0	2.3	3.7	
		達成率	100.0	96.4	90.0	117.4	73.0	
		達成区分	b	b	b	b	c	
決算(予算) 単位:千円		2,247	2,057	1,834	1,810	926	1,588	1,440

## 事業の評価(平成27年度の業績評価)

活動指標	b	評価	死廃事故の増加は、火災事故の発生が2件あったことによるものでやむを得ない。火災事故がなければ当初計画どおりの成果を上げることができた。
成果指標	c		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

## 見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

見直しの必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他( )		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上は余り望めない
	説明	情報収集の強化や農家指導の徹底により、死廃事故の割合を減らすことが可能である。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他( )		
その他	説明			
見直しの必要性	有	畜産農家の家畜衛生対策意識は向上していることから、平成27年度以外の実績はほぼ横ばいで推移している。今後は、検査効率及び検査件数等を再検討し、経費削減を図る必要がある。		

## 見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	畜産農家が飼養衛生管理基準を遵守し、外部からの病原体侵入防止を徹底することで慢性疾病対策を強化する。また、適確な畜産農家指導を行うために、家畜保健衛生所職員が専門的知識の更なる習得と疫学情報等の詳細な収集に努めることで、慢性疾病の検査数を削減し、経費削減を図る。
----------	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。